

県民の声に真摯に耳を傾け 玄海原発の再稼働を認めず、ただちに廃炉とすることを求める要請書

佐賀県知事 古川 康 殿

東日本大震災、福島原発事故発生から丸2年。

空気と水と大地、それに食べ物は放射能に汚染され、たくさんの命と大地が犠牲となりました。

目に見えない放射能と隣り合わせの暮らしを強いられている人達。

将来、どんな病気を抱えることになるか、不安を持ち続けなければいけない子ども達たちとその親達。

避難生活を余儀なくされ、心休まらぬ日々が続く人達。

原発内で被曝しながら、先の見えない作業に従事している労働者達。

あなたには、1人の人間として、また、責任ある知事として、人々の顔が見えていますか。

あらゆる警告を無視し、対策を怠り、事故を起こした電力会社、政府、御用学者。彼らは誰一人責任をとっていません。事故の原因も究明されるどころか、調査を妨害する始末です。

福島原発事故は収束しておらず、「復興」どころか、いまなお「原子力非常事態宣言」発令中なのです。

あなたは、私達はそんな最中にあることをわかっているのですか。

原子力防災計画づくりが進められていますが、ひとたび福島のような事故が起きたら、放射能から逃れるために、私達はどこへどう逃げたらいいのでしょうか。

あなたは、絶対被害を及ぼさないと保障できますか。

もしくは、すべてを失うかもしれないから覚悟しとけとでも言うのでしょうか。

原発は動かせば必ず核廃棄物を生み出します。未来永劫に放射能の管理をしなければなりません。

あなたは、未来の子ども達に了解をとったのですか。

普通の生活をしたいと考えるならば、原発の再稼働はありえません。

九州の原発がすべて止まっている今こそ、原発をただちに廃炉へと向かわせ、子ども達が安心して暮らせる地域を残すため動き出すときです。

饒舌な言葉はいりません。

県民の命を守ることがあなたの一番の仕事であるならば、国が何といおうと、これまでどんなに電力会社や原子力ムラの人々との癒着があろうと、玄海原発の再稼働の動きをきっぱりと止めてください。

そうすれば、「再稼働」に中立を装って「やらせ」を指示したという、県民を裏切る行為を贖罪し、県民の命を守るという知事として最大の責任を果たすことになるでしょう。

あれから2年。私達は福島を忘れず、原発をなくしたいと願う全国の人々とともに行動を続けていきます。

古川康・佐賀県知事、あなたに以下の4点を要請します。

1つ1つについて、どう考え、具体的に何をするのかを示してください。県民と「真摯に向き合っている」というのなら、行動で示してください。

1. 原発事故の被災者・避難者の声を受け止め、必要な支援を積極的に行うこと。
2. 原発や放射能の影響を心配する県民の声に真摯に耳を傾け、直接対話の場を設けること。
3. 県民の命と暮らしを守るために、玄海原発の再稼働を容認しないこと。
4. 一刻もはやく廃炉の道筋をつけ、脱原発社会づくりを全国に先駆けて推進すること。

2013年3月11日

玄海原発プルサーマル裁判の会
「忘れないで3.11 脱原発佐賀行動」参加者一同